



神の平和を届ける“手紙”

IIコリント 13・11-13, エペソ 6・15 (要旨)

説教者 原田憲夫

本日は「平和を祈る」礼拝です。「鍵の語キーワード」は「平和」です。「キリストの手紙」である私たちを通して届ける「神の平和」を覚え、心に刻みましょう。

序

I. 「愛と平和の神がともに」(IIコリント 13・11-13)

使徒パウロはこの手紙を締めくくるにあたり、「喜びなさい。完全になりなさい。慰めを受けなさい。思いを一つにしなさい。平和を保ちなさい」と勧めます。そして、「そうすれば、愛と平和の神はあなたがたとともにいてくださいます」と約束します(「愛と平和」を並べて神を語る箇所)。

今朝、この勧めに静かに耳を傾けていると、「平和」を壊すのは「平和」を願っているという「あなたたち」である、との声が聞こえてきます。「平和」を壊す最も大きく深い原因は・・・私たち人間が神に背を向け、敵対する道を歩んでいることにある、との声です。

そのような私たちに対し、「愛と平和の神」が、救い主イエス・キリストを送られました。キリストが私たち罪人のために十字架でいのちを捨てられたことにより、神は私たちのすべての罪を赦す愛を明らかにし、私たちとの和解の道を開かれたのです(ローマ 5・1,8-11)。

ですから、罪のために暗闇の中を歩んでいる私たちがキリストを心に迎えるなら、神の子どもとされ、神の平和を心に宿すようになります。これは一方的な神の恵みによるものです。

▶主イエス・キリストの言葉 (マタイ 5・9)；

「平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるからです。」

「平和を祈る」私たちが今日なすべきことは、神の子どもとしての自覚を新たにし、11節の勧めを心に刻み直すことではありませんか!

II. 「平和の福音の備え」(エペソ 6・15)

聖書は、「平和」を願う私たちに誘惑し、私たちに平和を壊させる「霊的な存在」について警告します。

私たちの目には見えませんが、神に敵対し、神を信じる者たちを墮落させ、暗闇の中に引き

摺りこもうとする霊的な存在「悪魔」です。

ですから、「平和を保つ」上で、「神の武具」を身につける必要があるのです。

(1) 「足に平和の福音の備えをはけ」

「平和」を壊す材料は身の回りに山ほどあります。気がつけば、互いに行き来が出来ないほど高い隔ての壁が積み上げられています。

▶しかし思い起こしてください。「キリスト」こそ「隔ての壁を打ちこわし、敵意を廃棄された」「私たちの平和」(エペソ 2・14,15)であることを。

ただ注意が必要です。神に敵対する勢力が狙うのは「足」です。身動きできなければ、悪魔が勝ったも同然だからです。

▶忘れないでください。「平和の福音の備えをはく」ことを。「平和の福音」とは「キリスト」です。大事なことは、悪魔の誘惑から私たちの—あなたの心をキリストがしっかりと守られるよう、キリストに信頼することなのです。

(2) 「良い知らせを伝える人の足になれ」

*イザヤ 52・7 「良い知らせを伝える人の足は、・・・」(cf.ローマ 10・15)

当時の「伝令者」には、鋭くとがった石が散乱している山や谷間を抜けて何十時間も、「良い知らせ」を伝えるために走り、歩くことは当たり前。傷だらけの、汚い足・・・けれども聖書は、「良い知らせを伝える人の足は、なんと美しいことか」と称賛するのです。

▷「平和を祈る」私たちが新たに心に刻むことは、「愛と平和の神」を信じ、「平和の福音の備えをはく」ことです。そして「良い知らせを伝える足となる」ことです。

*「あなたもそこにいたのか」(讚美歌 21-306番)・・・

今日、私たち—あなたは「神の平和」という「良い知らせ」を伝える使命をキリストから託されている「キリストの手紙」なのです!

(「キリストの手紙」シリーズ 10)